

19港灣春闘、統一交渉で賃金引き上げ実現を 全国港灣中央行動、総勢210名が参加

三月十三日、十四日、全国港灣の中央行動が開催され、総勢二一〇名が参加した。十三日には国土交通省、厚生労働省に対して「港灣政策並びに港灣労働に係る申し入れ」をおこない交渉をおこなった(なお、経済産業省、消防庁、日本貿易会、外船協については別途交渉をおこなった。夕方からは衆議院議員会館第一方からは衆議院議員会館第一方から)



長より報告を受けた。また、立憲民主党、国民民主党、日本共産党、社会民主党から激励の挨拶を受け、自由党、沖縄の風からは連帯のメッセージを受けた。十四日には毎年恒例となっている東京・丸の内デモ行進をおこない道行く人々に港灣の実情を訴えた。

主権者を代表して全国港灣の糸谷委員長は「今春闘の課題は大きくは三つある。一つは産別制度の中核をなす事前協議制度無視の問題。二月二日に問題が発生してからこの問題についての業側の考えは示されていない。二月二十八日の行動は延期したが、今日に至るまでまだ当該船社へ

の行動も見られない。これは延期した行動の再取り組みも止む無しであり、我々の雇用と職域を実力で守らなければならぬ。二つ目は産別統一交渉・港灣産別賃金の問題だ。業側は金額回答することが独占禁止法に抵触するとして統一賃金交渉を否定し続けている。しかし、労働組合は独占禁止法の適用除外である。公正取引委員会も中央労働委員会も労働法の権威である宮里弁護士も同じ見解だ。業界がその気になれば明日にでも解決できる話だ。速やかに統一交渉に応じて数字回答していただきたい。三つめは様々な労働条件・雇用環境の改善の問題だ。一九春闘の賃上げ要求は二万円・六%だ。例年の回答は全産業の平均にさえいかない数字でしかない。この様な状況を打破し、統一した賃金回答をきちんと行わせることを是非とも達成させたい。港運業界は、認可料金を復活させるべく我々とともに動き、適正料金を支払わせ、

州男議員、立憲民主党から西村智奈美議員、辻元清美議員、日本共産党から宮本岳志議員、山添拓議員、社会民主党から吉川元議員に駆けつけていただき激励の挨拶を受けた。また、自由党の森ゆうこ議員、沖縄の風の糸数慶子議員から連帯のメッセージを受けた。挨拶のなかでは「政府は景気が戦後最長などと言っているが、労働者は誰も実感して喜んでいる。その理由を、報道されている通りの提起を受けた。」

十三日夕刻からは衆議院第一議員会館内大会議室において決起集会を開催した。来賓は金持ちは欺かれていたからだ。国民連送事業基盤の安定に資する組合側より「船社アライアンスに係る件について、港灣運送事業基盤の安定に資する理由は、報道されている通りの提起を受けた。」

諸課題、港灣政策に係る諸問題、港灣労働者の雇用と職域に係る問題、安全・安心の諸施策と港灣機能の活用、「港灣労働法の全港・全職種適用拡大について、港灣倉庫・特定港灣倉庫の指定のあり方について、港灣通過貨物対策について、コンテナターミナルゲート作業の職域について、港灣産別協定である『日雇い不使用協定』について、港灣労働の石綿被災対策について、異常気象による災害発生時に於ける救済策について、ILO(国際労働機関)条約勧告批准について」等の申し入れに対する回答を求め交渉



占禁止法の適用除外である。公正取引委員会も中央労働委員会も労働法の権威である宮里弁護士も同じ見解だ。業界がその気になれば明日にでも解決できる話だ。速やかに統一交渉に応じて数字回答していただきたい。三つめは様々な労働条件・雇用環境の改善の問題だ。一九春闘の賃上げ要求は二万円・六%だ。例年の回答は全産業の平均にさえいかない数字でしかない。この様な状況を打破し、統一した賃金回答をきちんと行わせることを是非とも達成させたい。港運業界は、認可料金を復活させるべく我々とともに動き、適正料金を支払わせ、



フクシマ連帯キャラバン団となり、福島、茨城、新潟、長として参加してきました。六回目となる今年も各労働組合、民主団体の青年層が中心



フクシマ連帯キャラバン団となり、福島、茨城、新潟、長として参加してきました。六回目となる今年も各労働組合、民主団体の青年層が中心

をこなった。行政側からの回答は、残念ながら前年の回答と大差がなく、法律に基づき対処する・といった形式的なものが多かったが、組合側より「法律にそぐわないことが起きているから現場の声を届けていくとした。」

フクシマ連帯キャラバン団長を務めて 東北地方青年婦人部小名浜支部 武田陽介

十四日は結団式を行い、十五日は福島県いわき市の「放射能市民測定室たちね」を訪問し、いわき駅前前街宣及び街頭アンケートを行いました。この施設は二〇一一年に開所され、スタッフの方から「目に見えない、感じないからこそ、可視化して子供の安全を守っていききたい」との話もありました。国が指定していない地域でも、放射能の危険性に恐れている人達がいる事を知りました。

十六日は、「福島二〇一九原発のない福島を！県民大集会」へ参加、福島駅前前街宣及び街頭アンケートを行いました。二日間の街頭アンケートは「原発は必要だと思いませんか？」という内容で取り組

み、どちらも昨年より原発について「わからない」と言う方が増えた印象でした。当時小中学生だった子供達が「原発はどんなものなのか」を事発はどんなものなのか」を事発はどんなものなのか」を事

十七日は、浪江、富岡と現地視察してきました。帰還困難区域は震災時と何も変わっていませんでした。安倍政権は、原発事故が無かったかのようになり、補償の打ち切りや帰還困難区域の解除を進めていますが、避難している人達や住民を苦しめている実態がある事を忘れてはなりません。

十八日、十九日は、茨城「U PZ三〇キロ圏内周辺自治体への要請」と新潟「福島県庁要請・柏崎刈羽原発見学」の二班に分かれました。私は茨城県に行き「再稼働・広域避難計画」についての要請書提出をしてきました。県や市町村が考えている避難計画に、原発事故の教訓が生かされていないと感じました。二十日は、東電、省庁申し入れを行いました各省庁は



る。法律を補完する立場で臨んでほしい」と注文をつける。一定の理解が得られたように、すぐには解決できないとしても引き続き議論を重ねていくとした。

丸の内デモ行進 翌十四日は丸の内繁華街に集合し、道行く人に港灣の実情を広くアピールしようと千代田区労協との共催でデモ行進をおこなった。行進参加者は「大幅賃上げを行え!」、「港灣利用者は適正料金を支払え!」、「憲法改悪反対!」、「消費税増税反対!」等々とシユプレコールを高らかに行った。(片柳悦正)

る。法律を補完する立場で臨んでほしい」と注文をつける。一定の理解が得られたように、すぐには解決できないとしても引き続き議論を重ねていくとした。